



～学校の楽しさが伝わる広報紙へ～

第一小学校PTA広報紙『いずみ』 **金賞** 受賞

第一小学校父母教師会が発行しているPTA広報紙『いずみ』が第33回宮城県PTA連合会広報紙コンクールで金賞を受賞しました。今年度は、県内小中学校49校の応募の中から金賞5校、銀賞5校が選ばれ、第39回全国小・中学校PTA広報紙コンクールに応募されます。

第一小学校のPTA広報紙は、父母教師会広報部の保護者が編集作業を担い、学校行事や各学年の親子行事、PTAの活動など、楽しさや迫力が伝わるように作成しています。現在は年2回の発行に向けて、母親15人ほどが広報部員として活動しています。



担当を分担しながら、和気あいあいと楽しく取り組んでいます

見やすく分かりやすくするために、レイアウトや文字の大きさ、色使いなど限られた時間の中で話し合いながら進めています



広報部長の小栗朋美さんは「どうしたら読みやすいかなど、常に読み手の気持ちになって作成しています。大変なのは数十枚もの写真の中から“この1枚”という写真を選ぶ作業や原稿チェックです。今回金賞を受賞できたことを励みに次号の発行に向けて部員全員で頑張っています。」と教えてくれました。

問 第一小学校 ☎362-2011

シリーズ 日本遺産 「政宗が育んだ“伊達”な文化」と塩竈

夕月に照らされる まがき 籬が島

美しい景観を見て、神仏に祈り、海の恵みを味わうために、多くの人々が訪れる塩竈・松島は、平安時代から都人に知られていました。

塩釜港内にはかつて多くの島がありましたが、埋め立てや港湾の開発により失われてしまいました。唯一残る島が、国名勝「おくのほそ道の風景地」に多賀城市の壺碑(つぼの石ぶみ)などとともに指定され、第二中学校の校歌にも歌われる籬が島(新浜町)です。

「わが背子を 都にやりて 塩竈の まがきの島の まつぞ恋しき」(『古今集』905年成立)と詠まれた歌枕の地塩竈を、『おくのほそ道』の作者である松尾芭蕉が訪ねました。港町の漁師たちの声、夕月に照らされた塩竈の浦、深緑に囲まれ朝日に輝く朱塗りの社殿など、芭蕉は江戸時代の塩竈を情感豊かにつづり読者の五感に訴えています。

「文化の港シオモ」ホームページ
<http://shiomoto.jp/kodomo/edo-episode03>

籬が島には塩竈神社の末社である曲木神社があり、祭礼が8月1日に執り行われます。名勝の保護のため、毎月1日に限り橋を渡り参拝することができます。戦後、籬神社奉賛会は地域住民が中心となり結成され、先人の深い信仰を受け継いでいます。籬神社奉賛会事務局長滝井さんは、「奉賛会は、主に毎月1日の月次祭(つきなみさい)の早朝に曲木神社周辺の掃除や、例祭の運営などを行っています。子どもたちにも『奥の細道』で詠まれるほど美しい籬が島が身近にあるのだと知ってほしいですし、そのためにこれからも保護を続けていきたい」と語っています。

都人や俳聖芭蕉が魅了された塩竈の浦に、潮風とともに彼らの足跡を訪ねてみませんか。

【参考文献「籬島思考」】



籬神社奉賛会事務局長 滝井正巳さん



問 生涯学習課学習支援係 ☎362-2556

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。 防災行政無線確認電話 ☎364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1MHz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H29.5.31現在

住民基本台帳調べ (前月比)
 人口 54,967人 (+18人)
 男 26,257人 (+12人)
 女 28,710人 (+6人)
 世帯数 23,264戸 (+23戸)

「広報しおがま」は、22,700部製作し、1部当たりの経費(印刷・発送)は68円です。